

事業所名		児童発達支援 ケセラセラ北丘				支援プログラム		作成日		###	年	8	月	12	日		
法人（事業所）理念		●「子どもは、子どもたちの中で育つとき、生き生きと自分を成長させる」 ●「親は、共同して子育てするとき、子育てが楽しく豊かになる」 ●「保育は、一人ひとりの子や親の生活に寄り添うことから始まる」															
支援方針		●かけがえのない「一人」として受けいれ、自分への信頼を助長する。 ●子どもたち一人ひとりが持つ「自分を成長させる力」を信頼する。 ●子どもたち一人ひとりの違いを大切にし、多様性を尊重する。 ●互いへの信頼感を育み、違いを認めて共に力を合せる基礎的な力を養う。 ●保護者が生きがいを持って働き続けられるよう就労を支援します。															
営業時間		10		時	0		分から	17		時	0		分まで	送迎実施の有無		あり	なし
		支 援 内 容															
本人支援	健康・生活	●十分に養護の行き届いた環境の下、子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持や情緒の安定を図るため快適に健康で安全に過ごせるようにする。 ●ひとりひとりの子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ●ひとりひとりの子どもが周囲から主体として受けとめられ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちを育めるようにする。 ●ひとりひとりの子どもの能力に応じて、自分の事なるべく自分で出来るよう(片付け、更衣、トイレトレーニング等) 促しや方法を教える。 ●職員間で情報の周知徹底し、日々の健康状態の把握に努め、変化があった際には保護者と情報共有する。 <活動プログラム>・・・挨拶、身支度(片付け活動)、荷物整理、スケジュール把握等															
	運動・感覚	●遊びや活動を通して様々な感覚に刺激を与え、感覚を養う。 ●姿勢やポジショニングをとれるようにする。また、ストレッチなど実施する。 ●保有する感覚を十分に活用できる支える。 <活動プログラム>・・・体操、園庭遊び、ゲーム遊び等															
	認知・行動	●一日のスケジュールや時間を説明しながら、本児が時間と状況に応じた行動を取れるよう支援する。 ●片付けやお昼の準備等の役割を与え、意識して動けるようにする。 ●他児と制作や療育活動、お出掛け等を通して興味関心のあるものや事を引き出し、自発的な反応が出来るよう動きを促す。 ●現在の生活リズムを維持しながら、他児や職員と一緒に療育活動を等を行い、元気に過ごせるよう支援する。 ●意思表示が出来るようになる為、絵カード等を使用し可視化し、職員も意思の表出の理解に努める。 <活動プログラム>・・・空間認知、時計や絵カード等を利用した生活場面での文字や数字に親しむ等															
	言語 コミュニケーション	●自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ●人の言葉や話などをよく聴き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝えあう喜びを味わう。 ●日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育教諭等や友だちと心を通わせる。 <活動プログラム>・・・絵本、ジェスチャー遊び、挨拶、															
	人間関係 社会性	●他の人々と親しみ、支え合って生活する為に自立心を育て人と関わる力を養う。 ●人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てる。 ●自立心の育成や好奇心を満たせるように接する。 ●生活や遊びの中で順番を待つなどの決まりがあることを知り身につけるよう養成する。 <活動プログラム>・・・北丘聖愛園在園児との交流、ごっこ遊び等															
家族支援		●子どもの発達状況や障がい特性の理解に向けた相談援助。 ●子育てや障がい等に関する情報提供。 ●保護者のレスパイト(息抜き)支援						移行支援		●こども園や保育所への移行に向けた移行先との調整、移行先との支援内容等の共有や支援方法の伝達 ●進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助							
地域支援・地域連携		●子どもが通う保育所等との情報連携、支援方法や環境調整等に関する相談援助 ●医療機関、学校との生活支援や発達支援における連携を行い、総合的な支援ができるように取り組む。						職員の質の向上		●年間を通して法人及び外部での人権研修の参加 ●ケース会議の実施。 ●障がい児の理解を図るための障がい児研修への参加							
主な行事等		●季節（春・夏・秋・冬）に合わせて様々なイベントを行います。															